

ACANTHUS NEWS



「アカンサス」(和名「ハアサミ」)は、南ヨーロッパ原産で葉を様式化した文様はギリシャ建築などで有名。金沢大学の校章も、このアカンサスの葉を図案化したもの。

平成15年 **2003.4**

月刊アカンサスニュース
金沢大学広報紙 第78号

経済学部野村教授に日本学士院賞 — 本学では46年ぶりの快挙 —

TOP NEWS

経済学部の野村真理教授は3月12日、日本学士院賞の受賞決定通知を受けた。同賞の受賞は本学では岡本肇教授(故人)以来46年ぶりとなり、野村教授は翌13日の記者会見で次のように受賞の喜びを述べた。

「地味な研究が受賞対象となって喜んでいる。金沢大学は、情報量や研究会への参加などの点では不利といわれる地方都市にあるが、じっくりと研究させてもらえる環境にある。今回受賞の対象となった著書は金沢大学に来てから書いたもので、研究調査のため2回も外国に出張させていただいた金沢大学と経済学部感謝している。」



受賞対象となった著書「ウィーンユダヤ人 —九世紀末からホロコースト前夜まで」(御茶の水書房)



受賞決定の喜びを語る野村教授
=3月13日、経済学部会議室

法人化の準備状況等を議題に 第7回運営諮問会議を開催



本年度3回目となる第7回運営諮問会議(会長、石原多賀子金沢市教育長)は、法人化に係る諸問題等を主たる議題として3月13日午後開催され、林勇二郎学長が本学の大学改革の取組みと国立大学法人法案の概要について説明した。また金子劭榮副学長(法人化準備委員会委員長)が「中期目標・中期計画」(第三次案・未定稿)を含め法人化の準備状況等について説明し、併せて各委員へ一層の協力を要請した。

開会のあいさつを行う石原会長ほか出席した7名の委員
=金沢市内のホテル

卒業式における学長告辞

21世紀の国際社会を切り拓け 平成14年度金沢大学学位記・修了証書授与式学長告辞

本日ここに、平成14年度金沢大学学位記・修了証書授与式が挙行されましたこと誠に慶賀に存じます。ただいま学部卒業生1,891名、大学院修了生687名、専攻科13名、別科26名の方々に学位記および修了証書を授与いたしました。卒業生、修了生の皆さんおめでとうございます。心からお祝いを申し上げます。ご家族・保護者の方々には、これまでのご苦勞に感謝し、併せてお喜びを申し上げます。

諸君は、4年間さらには大学院の期間を本学で学び、金沢の街で生活し、多くの友人と親しみ、自己の形成に努められました。卒業にあたり、このことに誇りと自信を持って、またこれまでお世話になった方々への感謝の気持を忘れずに、新たな一歩を踏み出していただきたいと存じます。

さて、世界は今、イラク戦争を目の当たりにし、強い憤りと悲しみの中にあります。第二次世界大戦後の世界は、自由主義と社会主義の二極が対立し、緊張と牽制をもって一定の秩序が維持されてきました。そして、冷戦が終結することで、世界は平和に向けた対話の道を歩み始めたはずでした。

イラク戦争は、このような国際社会に、新たに複雑で不安定な構図を創り出そうとしています。いち早く戦後処理が取り沙汰され、日本政府もこのことに積極的な対応を示していますが、今後はイラクと同様に全体主義国家体制をとる北朝鮮問題はどうか、これまで営々と築いてきた国際協調の秩序をどのように回復するのか等、問題は山積しています。そして、そこではアメリカは当然のこと、それに追随する我



が国の威信と姿勢が改めて問われることになりましょう。

人類は今、環境、資源、人口など、すべてが危機的な状態に直面しています。国はもとより一人一人の個人でさえ、地球規模でモノを考え、コトを運ばざるを得ませんし、またこのようなグローバリゼーションの影響は避けられません。グローバル化は市場経済にも浸透し、国家間の競争を激化させています。これまで日本はモノづくり大国を自負してきましたが、その拠点は中国に移りつつあります。21世紀の人類には、地球市民としての共通認識と、国家の一員としての立場の両立が求められていると言えましょう。

諸君は、このような時代に社会への一歩を踏み出そうとしています。卒業にあたり、日本人として、また日本という国が、世界の中でどのような場所にいるのか、今何をしようとし、何をしなければならないかを、真剣に考えていただきたいと存じます。

地球上の温帯域で、四方を海に囲まれた日本列島は、穏やかに四季が移ろう自然豊かな国です。世界の古代文明は、メソポタミア、中国、エジプト、南米のアンデスの地で発祥しましたが、中でも豊かに発達したのが東西に拡がりをもつユーラシア大陸であり、その東のはずれに日本は位置しています。このように何事にも直接的に干渉されてこなかった我が国は、個性的で独自の文明文化を築いてきたと言えましょう。

しかし今や、環境影響物質が海や空を超え、大量の情報がネットを通して持ち込まれ、企業の国際活動は人と物の流れを加速しています。このように、すべてにグローバリゼーションが進展する時代にあつて、島国の独尊はもはや通用しませんし、他国のことは知らないでは済まされません。



諸君は、大学という学問の自由の場で、専門の知識を身に付け、物事を総合的に捉えるアプローチの仕方を学びました。これからは、地球人として日本人として、広い視野で物事を捉えかつ行動しなければなりません。そのためにも、本学で育んだ個性を存分に発揮し、自らの考えを積極的に主張していただきたいと存じます。

我が国の経済は相変わらず低迷し続けています。諸君はこのような時に、職業人として国際競争の場に立つとき、国家の一員であることと地球人であることに齟齬を感じるかも知れません。これは、多くの国々がイラク戦争をめぐる、国家と世論が対立している現象に似ていますが、大切なことは、あらゆる競争は、人道の倫理を基本とした正当なものでなくてはならないことです。21世紀のキーワードは競争的共存であり、そのための世論は、国があつての世論ではなく、世論があつての国であらねばなりません。諸君の一人一人の言動を全体の総意とすることで、日本が世界の国々から信頼され、21世紀の国際社会を切り拓いていくことを期待いたします。



角間キャンパスでは、冬の眠りから醒めた草木が萌芽し、浅の川の流れは春の陽射しを受けて輝きを増しています。諸君におかれては、自然に恵まれ诗情豊かな学府・金沢で学生生活を送った感動を胸に刻み、世界に向けて大きくはばたかれますよう。金沢大学は、法人化を目前にし、地域に根ざし世界に開かれた大学に向けて邁進しています。個性を磨くために、再び母校に戻られることがあれば幸いです。諸君の健闘を称え、さらなる発展を祈念し、告辞といたします。

卒業生・修了生数

1 卒業生数

文	学	部	162名	
教	育	学	部	242名
法	学	部	208名	
経	済	学	部	198名
理	学	部	188名	
医	学	部	328名	
薬	学	部	77名	
工	学	部	488名	
合 計			1,891名	

2 修了生数

(1) 大学院

大学院文学研究科(修士課程)	22名
大学院教育学研究科(修士課程)	49名
大学院法学研究科(修士課程)	18名
大学院経済学研究科(修士課程)	12名
大学院医学系研究科(修士課程)	68名
大学院自然科学研究科(博士前期課程)	430名
大学院医学系研究科(博士課程)	32名
大学院社会環境科学研究科(博士課程)	4名
大学院自然科学研究科(博士後期課程)	52名
合 計	687名

(2) 専攻科

特殊教育特別専攻科	13名
-----------	-----

(3) 別科

養護教諭特別別科	26名
----------	-----

卒業生・修了生総数	2,617名
-----------	--------

目次

経済学部野村教授に日本学士院賞 —本学では46年ぶりの快挙—	1	第1回金沢大学FD研究集会	8
法人化の準備状況等を議題に第7回運営諮問会議を開催	1	第1回北陸地区国立3大学教養教育研究会	8
21世紀の国際社会を切り拓け		工学部第4回教育方法改善(FD)シンポジウム	8
平成14年度金沢大学学位記・修了証書授与式学長告辞	2	新任部局長等	9
第1回金沢大学21世紀COE国際シンポジウム	4	金沢大学地球学公開セミナー	
金沢がん生物学国際シンポジウム2003	4	粘土と岩石やきものはカメレオン?	9
技術移転セミナー	4	ひなまつりコンサート	9
講演会「知的財産権を巡る現状と今後」	5	大学間交流協定	10
ミレニアムフォーラム 第4回物質構造科学の最前線	5	本学へのお客さま	10
第13回遺伝子工学トレーニングコース(高等技術コース)	5	退職記念式	10
世界最大?のサケ科魚類の化石を発見	5	ミニ講演会	11
地域貢献推進大学シンポジウム		留学生センター外国人留学生2002年度合同修了式	11
「国立大学の地域貢献における課題と展望」	6	平成14年度留学生センター研究会	11
金沢大学フォーラム「地域と金沢大学」	6	平成14年度外国人留学生 実地見学旅行	11
「金沢学への招待」	7	早春の里山探検—角間の里山自然学校—	12
北陸地域における金沢大学の地域貢献	7	火災防衛訓練	12
第3回金沢大学・石川県・金沢市連絡協議会	7	合格者発表	12
		編集後記	12

シンポジウム等

第1回金沢大学21世紀COE国際シンポジウム

3月17, 18の両日, 21世紀COEプログラム「環日本海環境計測と長期・短期変動予測」の事業の一環として国際シンポジウムが開催され, 国内外から270名の研究者が参加した。

計12の講演が行われた
シンポジウム
=3月17日, 金沢市内のホテル



意見交換を行う研究者

金沢がん生物学国際シンポジウム2003



講演するがん研究所高橋豊助教授
=3月13日, 金沢市内のホテル



質問する米国のがん研究者

3月12, 13日「金沢がん生物学国際シンポジウム2003」が, がん研究所と東京大学医科学研究所の共催で開催され, 100名を超す研究者が参加した。

技術移転セミナー

共同研究センターは3月14日, (有)金沢大学ティ・エル・オーとの共催により, 米国技術移転活動の父と称されるニルス・ライマース氏を招いて, 技術移転セミナーを開催した。



ニルス・ライマース氏を囲んでのセミナー
=インキュベーション施設1階セミナー室

講演会「知的財産権を巡る現状と今後」



3月24日、共同研究センターは(有)金沢大学ティ・エル・オーとの共催により、吉國信雄特許庁審判部部門長を講師に、「知的財産権を巡る現状と今後」と題した特別講演会を開催し、教職員、企業関係者等約50名が参加した。

講演する吉國信雄氏
=インキュベーション施設1階セミナー室

ミレニアムフォーラム 第4回物質構造科学の最前線

3月3日、大学院自然科学研究科物質構造科学専攻は、ミレニアムフォーラム「物質構造科学の最前線」を開催した。これは自然科学の基礎的研究分野の最前線を、分野外の人や一般社会人に知ってもらおうと2000年から毎年開催されているもので、今回が4度目となる。



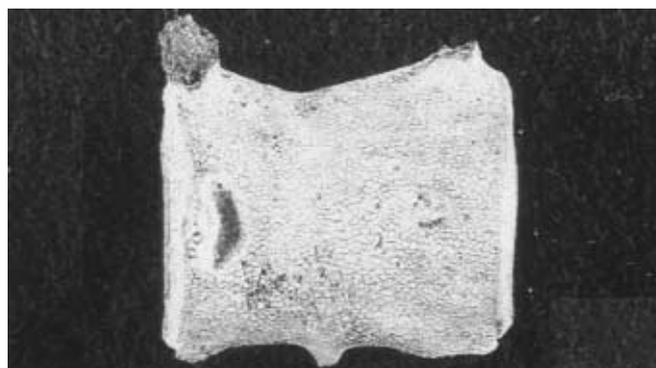
2000年から開かれているフォーラムの様子
=理学部大講義室

第13回遺伝子工学 トレーニングコース (高等技術コース)

3月12～14日の3日間、遺伝子実験施設において、「DNAマイクロアレイ（DNAチップ）技術」に関して、学内11名と学外から5名（内、民間企業研究者は4名）の計16名の受講生に対して実技実習がおこなわれた。



実習を行う受講生
=遺伝子実験施設



陰地さんが発見した化石。長さ2cm近く、太さ1cm余り
=撮影・塚脇真二助教授

世界最大？の サケ科魚類の化石を発見

3月初旬、自然科学研究科環境基盤工学専攻の陰地章仁さんが金沢市大桑で発見した化石が、国立科学博物館上野輝彌名誉研究員の鑑定によってサケ科魚類の背骨の一部であることが明らかになった。同研究員によるとこの化石はサケ科魚類としては世界最大のものである可能性がきわめて高いという。このニュースはNHKテレビ、ラジオで全国に発信されるとともに北陸中日新聞の第一面を飾った。

地域貢献

地域貢献推進大学シンポジウム 「国立大学の地域貢献における課題と展望」

文部科学省地域貢献特別支援事業に採択された15大学で構成する「国立大学地域貢献ネットワーク」(事務局:金沢大学)は3月28日、一橋記念講堂において文部科学省の協力のもと、地域貢献推進大学シンポジウムを開催した。

シンポジウムでは、文部科学省高等教育局合田隆史高等教育企画課長、同大学課串田俊巳大学改革官ら文部科学省関係者をはじめ国・公・私立大学等から300名を超える関係者が参加する中、国立学校財務センター研究部長天野郁夫教授が「国立大学と地域貢献－新しい展開」と題して基調講演した。



開会式であいさつする串田氏



基調講演する天野氏



＝一橋記念講堂



意見交換会であいさつする合田氏



あいさつする林学長

「地域と大学が創る文化」について講演する国立西洋美術館樺山紘一館長
＝金沢市内のホテル

金沢大学フォーラム 「地域と金沢大学」

地域のニーズを大学運営に生かすため、3月2日、「地域の活力と金沢大学の知を結ぶ」をテーマに、金沢大学フォーラムが開催され、金沢大学、自治体関係者や市民約110名が参加した。

「金沢学への招待」

3月9日～3月15日、東京・京阪神地区の15の国・私立大学で学ぶ外国人留学生を対象に、加賀百万石の歴史・伝統芸能・工芸など「文化」についての体験と学習を行う「金沢学への招待」が開催された。大乘寺の座禅を皮切りに、金沢学講義、茶道・能楽の文化体験研修、東山茶屋街・長町武家屋敷の散策を実施した。

座禅を組む留学生
=大乘寺



留学生と講師で意見交換会
=3月14日、金沢市内のホテル



多くの課題が提起されたシンポジウム
=金沢市内のホテル

北陸地域における 金沢大学の地域貢献

3月11日、法学部は「北陸地域における金沢大学の地域貢献ー市民・企業・自治体の視点からー」と題するシンポジウムを開催した。シンポジウムには、法学部教官、学生、企業の人事担当者及び自治体職員等100名弱が参加し、企業や地方自治体との協力体制や人材育成に対する要望など、多くの課題が提起され、これらの意見をFD活動に反映していくことが確認された。

第3回金沢大学・石川県・ 金沢市連絡協議会

3月26日、第3回金沢大学・石川県・金沢市連絡協議会が開催され、関係者15名が出席した。

会議では、金沢大学から平成14年度地域貢献特別支援事業の実施状況が報告され、石川県及び金沢市から、大学と地域の連携体制づくりに大きな成果があった旨の発言があった。

また、平成15年度事業計画について審議した。



意見交換を行う関係者
=金沢大学サテライト・プラザ

FD研究集会

第1回金沢大学FD研究集会

3月15日、教育委員会及び教育改革推進専門委員会（FD部会）の主催により、「金沢大学におけるFD活動」をテーマとする第1回金沢大学FD研究集会が開催され、学内外から123名が出席した。

絹川正吉国際基監教大学学長の基調講演に続いて、関係教官から「厳格な成績評価に向けて」等本学のFD活動について報告があり、討論が行われた。



大学教育におけるFD活動について基調講演する絹川氏
=金沢市内のホテル

第1回北陸地区国立3大学教養教育研究会



意見交換を行う3大学の教官
=金沢市内のホテル

3月29日、北陸地区国立3大学教養教育実施組織連絡協議会的主催により第1回北陸地区国立3大学教養教育研究会が開催された。

同協議会構成メンバーである富山大学、福井大学、金沢大学から教養教育に携わる教官等19名が出席し、3大学が連携して行う事業、各大学における問題点、共通する課題等について活発に意見交換が行われ、今後も教養教育の改善に向けて協力・連携していくことが確認された。

工学部第4回教育方法改善（FD）シンポジウム

工学部は3月10日、第4回教育方法改善（FD）シンポジウムを開催した。このシンポジウムは平成12年3月より毎年1回開催しているもので、今回は4回目となり、工学部の教官、技術職員等195名並びに他部局から多数の教職員が参加した。

シンポジウムでは、三菱電機株式会社島田 彌人事部顧問から「企業が求める人材像と大学教育への期待」と題して特別講演が行われた。



シンポジウムの全体会
=総合教育棟B1講義室

部局長等紹介

新任部局長等



大学院自然科学研究科長
樋渡 保秋

任期：平成15年4月1日～平成17年3月31日



大学教育開放センター長
染井 正徳(薬)

任期：平成15年4月1日～平成17年3月31日



学際科学実験センター長
山口 和男(学セ)

任期：平成15年4月1日～平成17年3月31日



総合メディア基盤センター長
長野 勇(工)

任期：平成15年4月1日～平成17年3月31日



留学生センター長
中山 謙二(工)

任期：平成15年4月1日～平成17年3月31日



大学教育開発・支援センター長
畑 安次

副学長(教育担当)が兼務

金沢大学地球学公開セミナー 粘土と岩石 やきものはカメレオン？

3月23日・30日の両日、理学部において地球学公開セミナー「ねんどと岩石ーやきものはカメレオン？」が、理学部地球学科と金沢美術工芸大学の共同事業として開催された。やきものセミナーは昨年に続いて2回目、参加者は30名にのほりににぎやかなセミナーとなった。



ねんどでやきものを作る小学生
=3月23日、理学部地球学科第2学生実験室

ひなまつりコンサート

医学部附属病院は3月7日、患者サービスの一環として、入院中の子どもたちや患者さんのために「ひなまつりコンサートin 2003」を約150名の参加で開催した。

当日は、人形劇サークルによる第1部「人形劇と紙しばい」、金沢大学生の琴、尺八、三味線と本院看護部有志のフルートとピアノ合奏による第2部「早春のしらべ」、うたと手遊びの第3部「みんなで楽しく」の3部構成で行われた。



さわやかな演奏で春のひとときを楽しむ患者さんたち
=西病棟1階合同カンファレンスルーム

国際交流

大学間交流協定

○ 四川大学（中国）



張肇達副学長（右）
= 四川大学来賓室

3月6日、中国成都市にある四川大学において、本学と四川大学との大学間交流協定を締結した。本学から、村上清史学長補佐（がん研究所教授）が調印式に出席した。

○ カレル大学（チェコ）



左からハラシュコーバ国際課長、ステイングル副学長
右端ボポリローバ国際課コーディネーター
= カレル大学本部カロリヌム館応接室

3月28日、チェコ共和国プラハにあるカレル大学において、本学とカレル大学との大学間交流協定を更新し、学生交流の覚書を締結した。本学から、和田敬四郎学長補佐（附属図書館長）が調印式に出席した。

本学へのお客さま



中国大連軽工業学院，中央 林茂全党書記
右から2番目 陶学恒教授，左から2番目 南 蓮副教授
= 3月26日，学長室



オクラホマ大学ジョセフ・フェレッティ上級副学長（左）
= 3月20日，医学部長室

退職記念式

3月27日、平成14年度末に退職する教職員の退職記念式が実施され、44名が出席した。

式では、併せて永年勤続者表彰、感謝状授与等が行われた。



記念式に出席した教職員
= 事務局大会議室

ミニ講演会

「日本の自然史学をイギリスから見る」

「豊かなスポーツを求めて」



植田邦彦自然科学研究科教授
=3月2日、金沢大学サテライト・プラザ
来場者：22名



鈴木 漢大学教育開放センター教授
=3月8日、金沢大学サテライト・プラザ
来場者：21名

留学生センター外国人留学生2002年度合同修了式

留学生センター外国人留学生の2002年度合同修了式が3月7日、大学教育開放センターで開催された。式では日本語研修コース生（第15期）6名（ミャンマー・モンゴル・フィリピン・エジプト・メキシコ・ブラジル）、日韓共同理工系学部留学予備教育生（第3期）3名に堀林留学生センター長から修了証書が手渡された。



修了生と留学生教育関係者
=大学教育開放センター



大阪大学留学生センター古城紀雄教授と参加者
=総合情報処理センター

平成14年度 留学生センター研究会

留学生センターは3月6日、「平成14年度留学生センター研究会」を開催した。



3月3日、
姫路城の前にて

平成14年度 外国人留学生実地見学旅行

3月2日から2泊3日の日程で、外国人留学生33名が参加して岡山県及び兵庫県への実地見学旅行が行われ、日本の美術・建築文化に触れることで、日本の歴史及び伝統文化について理解を深めた。

早春の里山探検 —角間の里山自然学校—

3月8日、雨あられ中、里山ゾーン南半分の道のない尾根を探検した。尾根には旧道の跡が残っており、これをたどって南谷を下った。山中ではちょうどキクバオウレンが花の時期を迎えていた。また、山すその止水域ではアカガエルの仲間やクロサンショウウオの卵塊なども観察した。これらは2月下旬から3月上旬の短期間に山すその止水域に下りて交尾・産卵し、再び山に戻るという。



クロサンショウウオの観察



キクバオウレン



はしご車からの避難
=事務局前

火災防御訓練

3月6日、事務局で、火災防御訓練が実施された。訓練は金沢市消防本部との協力で行われたもので、避難経路、はしご消防車、ヘリコプターによる避難訓練が実施された。

合格者発表

平成15年度学部入学選抜試験については、3月8日に前期日程の合格者1,453名が、同22日に後期日程の370名がそれぞれ発表された。

前期日程合格者発表風景
=3月8日、大学会館前



編 集 後 記

4月からアカンサス ニュースを担当することになりました。これまで何気なく見ていたアカンサスですが、編集してみると、ひとつひとつの記事の中にその事業に携わった人の熱意が見えてきます。紙面の都合から多くの言葉を載せることができませんが、写真を通して、その思いを少しでも皆さんに伝えたいと思います。

国立大学法人への移行まで、いよいよ1年を切りました。これからの1年は法人化に向けた改革への動きがますます激しくなります。この動きをしっかりと捉えて伝えていくことを編集の基本としたいと思います。

(総務部企画広報室広報係長 西谷 玲子)

平成15年4月18日発行
(原則として毎月1回第3週に発行)

〒920-1192 金沢市角間町
編集 金沢大学総務部企画広報室

TEL 076-264-5024
FAX 076-234-4015

◆本紙の内容、その他の本学に関する諸情報については、「金沢大学ホームページ」(愛称“KUPIS”(キューピーズ))
(アドレス=<http://www.kanazawa-u.ac.jp>)でもご覧いただけます。
◆本紙に関する御意見・御要望などは、電子メール(E-mail) = general1@kenroku.kanazawa-u.ac.jp でも受け付けています。